

2級 工業簿記

(製造業簿記入門)

2級 工業簿記

標準的な勘定科目の例示は、次のとおりである。なお、製造過程外で使用される商業簿記の勘定科目を除く。

製造原面に関する勘定	材 料 (費)	補助材料(費)	工場消耗品(費)	消耗工具器具備品(費)	労 務 費	賃 金
雑 給 経 費	賃 借 料	電 力 料	ガ ス 代	水 道 料	直接材料費	
直接労務費	製造間接費	加 工 費	仕 掛 品	製 品	費用勘定	売上原価
その他の勘定	月次損益	年次損益				

製造原価に関する勘定

材料（費）

（竹中 輝幸）

製品を製造するために消費した物品（素材，買入部品，燃料，工場消耗品および消耗工具器具備品）の総称。その消費額が材料費であり，原価の3要素の1つである。

設例 材料¥850,000（4,250kg @¥200）を掛けて仕入れた。

（借）材 料 850,000 （貸）買 掛 金 850,000

設例 製造工程で材料3,500kgを消費した。材料払出高の計算は，先入先出法によっている。

月初棚卸高：800kg @¥200，当月仕入高：4,000kg @¥250

（借）仕 掛 品 835,000 （貸）材 料 * 835,000

* 800kg × @¥200 + 2,700kg × @¥250 = ¥835,000

補助材料（費）

（望月 信幸）

製品の製造のために補助的に物品を消費することで発生した金額。間接材料のうち，金額的に重要性が高く，在庫票により受払記録を行い管理される物品で，修繕や運搬，検査，試験研究などに消費された金額が含まれる。

設例 補助材料¥350,000を掛けて購入した。

（借）補 助 材 料 350,000 （貸）買 掛 金 350,000

設例 修繕のため，補助材料¥40,000を消費した。

（借）製 造 間 接 費 40,000 （貸）補 助 材 料 40,000

工場消耗品（費）

（竹中 輝幸）

機械油・釘・ねじ類など，製品の製造のために補助的に消費される消耗品。

設例 個別原価計算において，工場消耗品を次の資料にもとづいて，間接材料費とした。

月初棚卸高：¥143,000，当月購入高：¥1,857,000，月末棚卸高：¥156,000

（借）製 造 間 接 費 1,844,000 （貸）工 場 消 耗 品 1,844,000

設例 本社は、素材¥932,000および工場消耗品¥276,000を購入し、工場へ送った。なお、代金のうち¥250,000は小切手を振り出し、残額は掛けとした（工場会計が本社会計より独立している場合の仕訳）。

【工場の仕訳】

(借)材	料	932,000	(貸)本	社	1,208,000
	工場消耗品	276,000			

【本社の仕訳】

(借)工	場	1,208,000	(貸)当座預金	250,000
			買掛金	958,000

消耗工具器具備品（費）

（吉田 智也）

消耗性のために耐用年数が1年未満、または金額にして相当額未満のため、固定資産として処理する必要のない工具（スパナ、ドライバーなど）、器具（測定器具、検査器具など）、備品（机、椅子、黒板など）。

設例 近畿商店から当月分の消耗工具器具備品¥90,000を買入れ、代金は掛けとした。

(借)消耗工具器具備品	90,000	(貸)買掛金	90,000
-------------	--------	--------	--------

設例 消耗工具器具備品の実地棚卸高は¥18,000であった。消耗工具器具備品の消費高の計算は、棚卸計算法によるものとし、前月からの繰越高は¥12,000であった。

(借)製造間接費	84,000	(貸)消耗工具器具備品	84,000
----------	--------	-------------	--------

労務費

（望月 信幸）

製品の製造のために労働力を消費することで発生した原価の総称。原価を形態別に分類（材料費・労務費・経費）したさいの1つであり、賃金・給料や退職給付引当金繰入額、法定福利費などが含まれる。

設例 従業員に対し、賃金および給料の合計額¥850,000のうち、所得税預り金¥80,000を差引き、残額を当座預金から支払った。

(借) 労 務 費	850,000	(貸) 当 座 預 金	770,000
		所得税預り金	80,000

設例 労務費のうち、¥480,000を直接労務費として、¥240,000を間接労務費として消費した。

(借) 仕 掛 品	480,000	(貸) 労 務 費	720,000
製造間接費	240,000		

賃 金

(中野 貴元)

製造活動に従事する従業員（工員）に対して支払われる給与。製品の製造活動に直接従事する工員（直接工）の賃金の消費額は、直接労務費として仕掛品勘定に、それ以外のものは製造間接費勘定に振り替える。

設例 工場の従業員に対して、本日、賃金（総支給額¥4,800,000預り金¥800,000）から預り金を差し引き、正味支払額を当座預金より各人の普通預金口座へ振り込んだ。

(借) 賃 金	4,800,000	(貸) 当 座 預 金	4,000,000
		従業員預り金	800,000

設例 個別原価計算において、直接工の実際賃金消費額を計上した。前月末未払額：¥500,000、当月支給額：¥1,500,000、当月未払額：¥450,000

(借) 仕 掛 品	1,450,000	(貸) 賃 金	1,450,000
-----------	-----------	---------	-----------

雑 給

(吉田 智也)

製造活動のため臨時に雇用したアルバイト・パートタイマーなどの労働に対して支払われる給与。実際額で記録され、消費額は間接労務費として製造間接費勘定に振り替える。

設例 工場の補助作業を行うパートタイマー 5名に対して、当月分の給料¥450,000から源泉所得税¥15,000を控除して、普通預金口座から支払った。